

6 - 3 1985年1月6日和歌山・奈良県境付近の地震

The Earthquake near the Border of Wakayama and Nara Prefectures, January 6, 1985

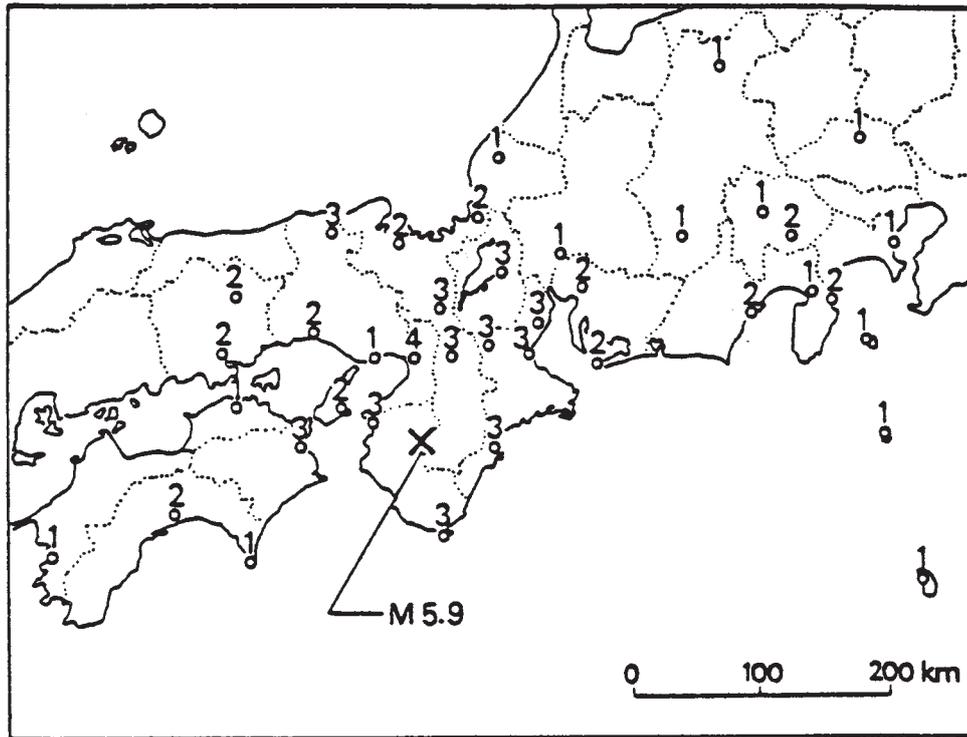
気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

1985年1月6日00時45分に和歌山・奈良県境付近でM5.9の地震が発生，第1図にみられるように大阪で震度4であったのをはじめ，中国，四国地方から関東地方におよぶ広い範囲で有感であった。震源は， $34^{\circ}10'.8\text{N}$ ， $135^{\circ}33'.1\text{E}$ ， $H = 70\text{ km}$ ， $OT = 00\text{ 時 }45\text{ 分 }38.5\text{ 秒}$ と求められている。この地震の約1分後の00時46分にM5.5の余震が発生し，大阪，潮岬などで震度3を観測したのをはじめ，近畿地方を中心にかなり広い範囲で有感であった。この余震の震源は， $34^{\circ}09'.4\text{N}$ ， $135^{\circ}33'.5\text{E}$ ， $H = 69\text{ km}$ ， $OT = 00\text{ 時 }46\text{ 分 }36.3\text{ 秒}$ と求められている。余震はこのほかに6日05時43分と7日09時33分にも観測された。第2図は，本震のメカニズム解である。主張力軸が北東-南西方向の正断層型である。

第3図はこの付近における1926年から1984年までに発生したM5.0以上の地震の震央分布で，震源が31kmより深いものについて斜線を施してある。黒く塗りつぶしたものは今回の本震とその直後に発生した余震である。今回の地震の極く近くで発生した地震としては1949年9月11日のM5.1の地震があり，その北西側10数kmのところでは1944年7月2日にM5.2の地震が起こっている。また南東側10数kmのところでは，1929年7月4日にM5.2の地震が，1984年2月11日にM5.5の地震が起こっている。

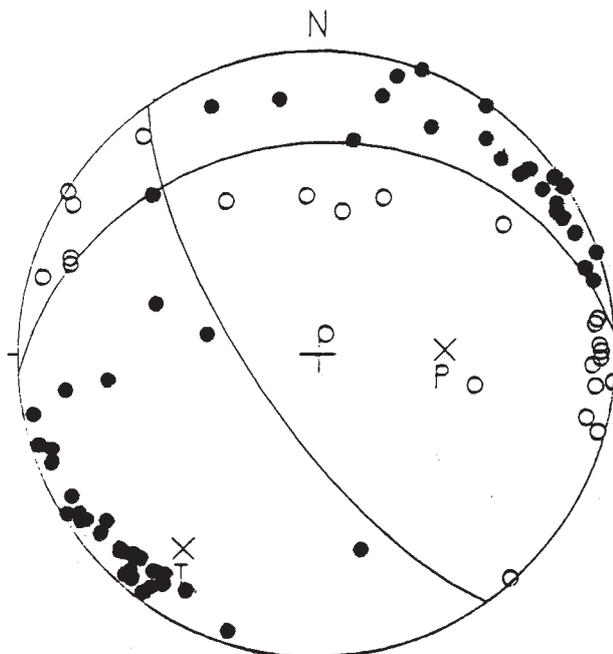
第4図は第3図に示した地震についてのM-Tプロットで，図4-(a)は震源の深さ30km以浅のもの，図4-(b)は31km以深のものを示してある。30kmより浅い地震では，1944年の東南海地震，1946年の南海道地震の前はM6クラスあるいはM5クラスの地震が多く発生したが，その後は少なく特に最近は少ない。これに対し，31kmより深い地震では1937年頃までM5以上の地震はなかったが，その後は約10年に1回くらいM6前後の地震が発生している。



第1図 1985年1月6日和歌山・奈良県境付近の地震の震度分布

Fig. 1 Distribution of seismic intensities for the earthquake near the border of Wakayama and Nara Prefectures.

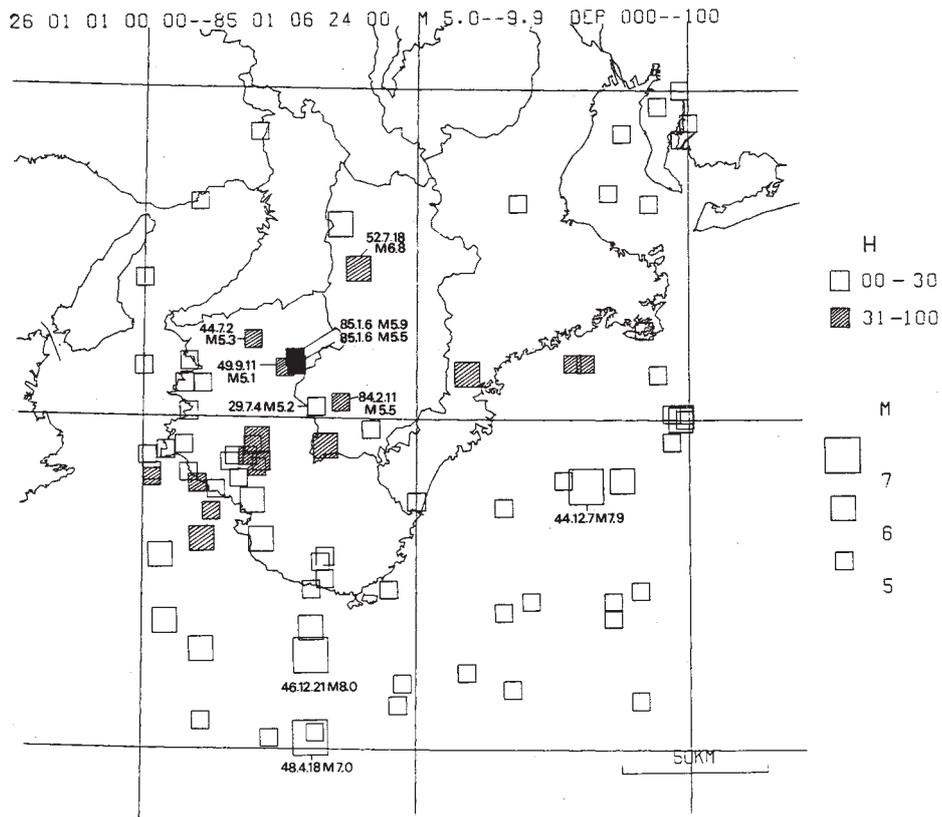
6 JAN. 1985 00 45
 LON.=135 33 LAT.=34 11 H=69 MAG.=5.9
 DIP DIR.=184 DIP=31 DIP DIR.=305 DIP=72
 P AZ=272 IN=35 T AZ=145 IN=67
 S - S D - S



第2図 1985年1月6日和歌山・奈良県境付近の地震のメカニズム解 (上半球投影)

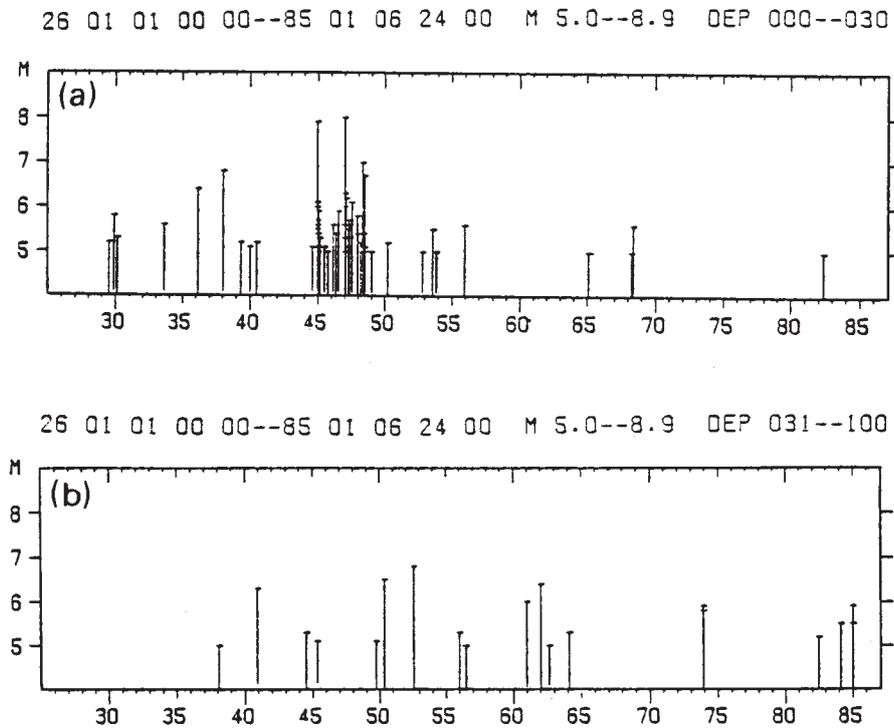
Fig. 2 Focal mechanism of the earthquake near the border of Wakayama and Nara Prefectures, January 6, 1985 (projected on the upper hemisphere).

● : up ○ : down



第3図 1926年1月1日～1985年1月6日和歌山県およびその周辺の地震活動 ($M \geq 5.0$)

Fig. 3 Distribution of earthquakes with magnitude larger than 5.0 in and around Wakayama Prefecture, January 1, 1926 - January 6, 1985.



第4図 (a), (b) 1926年1月1日～1985年1月6日の和歌山県およびその周辺に発生した地震のM-Tプロット

Fig. 4 Magnitude-time plot of earthquakes shown in Fig. 3.

(a) $0 \leq H \leq 30\text{km}$

(b) $31 \leq H \leq 100\text{km}$